

トピックスを読もう2

ドーナツ化現象からあんパン化現象へ

増え始めた東京都心の人口

最近の日本で最も人口の増加が著しいのは、東京都の千代田区、中央区、港区です。それは都心の再開発が進み、便利で住みやすい環境となりつつあるからです。同じような現象は大阪や福岡など、全国の都市でもおきています。

以前は、多くの人々にとって大都市は住みにくい場所でした。便利ですが、土地やマンションが高価であり、ゆったりと生活するには不向きだからです。

そのため1960年代から2000年ごろにかけて都心部の人口が減少し、都会の周囲の通勤圏にベッドタウンが形成され、「ドーナツ化現象」と呼ばれました。東京都心の小学校や中学校では、「今年は新入生がない」というようなこともあり、廃校になる学校も少なくありませんでした。

なぜ、都会に人がもどってきつつあるの？

あんパン化現象とは、2000年代に入り、人口が都市へ帰ってき始めたようすを表しています。その拍子手は、都会の生活を好む若者、夜遅くまで働くビジネスマンとその家族のほか、高齢者も多くいます。

若者にとっては、職場や学校が近く、デパートや飲食店など、いろいろな施設が整い、生活に便利な都心はとても魅力的です。また、高齢者にとって、都会はよい病院が近くにあり、いざというときは自分の息子

や娘がかけつけてくれる場所です。つまり安心できる場所というわけです。



地理の
マツ知識
 平均寿命(2005年)は、男性では長野県(79.84歳)を1位に、滋賀県、神奈川県と続く。女性では沖縄県(86.88歳)を1位に、島根県、熊本県と続く。

人口密度がモンゴルと同じ!?

日本の人口は、約1億2800万人で世界で第10位、人口密度は342人/km²で第17位です。全人口の約半分は、国土のわずか6%にすぎない東京、大阪、名古屋の3大都市圏に集中しています。そのため、東京や大阪、その周辺の都市は過密の状態、人口密度が1万人を超えるところがあります。

いっぽう山間部の過疎地域には、人口密度がわずか数人というところもあります。福島県檜枝岐村は2000m級の山々に囲まれ、全村の98%が林野です。390km²の面積に人口はわずか618人しか住んでいません(2009年)。人口密度はたった1.6人/km²しかありません。これは人口密度が世界一低いモンゴルと同じです。

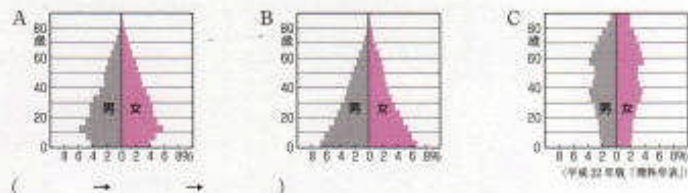


現代の日本で、過疎化の問題は深刻です。下條村のように、くふうをこらして問題を解決しようとする姿勢は、とても大切です。

確認テスト (答えは142ページ)

次の()にあてはまる用語や記号を書きこみましょう。

- ① 世界の人口は、およそ()人である。
- ② 南アジアやアフリカでは、急激に人口が増え、()がおきている。
- ③ 世界の人口の約60%を占める地域は()である。
- ④ 世界でもっとも人口が多い国は、()である。
- ⑤ 次の日本の人口ピラミッドの図は、1935年、1960年、2008年のどれかです。時代が移り変わる順にならばなさい。



- ⑥ 日本では都市部に人口が集中するいっぽう、都市から遠い地域では過疎化が問題になっている。過疎化が進む原因を1つ考えて書きなさい。